

シャープ社友会 栃木支部会報

第37号

nikko

2016. 1. 1 発行
発行責任者 増田武司

<http://www.tcg-syayu.co-site.jp/index.html>



雲竜溪谷手前 稲荷川沿いで出会った『霧氷』
撮影：大屋信幸（会員番号5522）

平成二十八年を迎えて

シャープ社友会 栃木支部

支部長 増田 武司

あけまして

おめでとーございます



会員の皆様には穏やかに
新年をお迎えのことと存じ
ます。

日頃は社友会活動にご理
解、ご協力いただきありが
とうございます。

昨年は一昨年に引き続き日本人のノーベル賞の受賞や軍艦島等の世界遺産登録等、喜ばしいニュースがあった反面、台風の影響で豪雨による鬼怒川下流が氾濫し大きな被害が発生したり、大型マンション等の杭打工事のデータ偽装問題や東京オリンピックのエンブレムや新国立競技場問題、そしてマイナンバー通知カードの遅配・誤配問題等々で大騒ぎをした年でもありました。

その様な中、社友会栃木支部においては支部役員・幹事の方々のご協力により当初計画の活動は予定通り進めることが出来ました。

年初の支部賀詞交歓会を初め、春の懇親行事、支部定期総会等の恒例の行事を開催したほか、全支部会員に対し、アンケート調査を実施しました。内容は同好会活動を通して社友会活動の活性化を目的に新規に設立したい同好会についてのアンケートを実施し、七十

四名の方から回答をいただきました。さらには一部の方からは近況報告／意見もいただきました。このアンケートをベースに今後新規同好会設立に向け具体的に進めることにします。十一月には、秋の日帰りバスツアーに代わって初めての試みとしてボウリング大会を開催しました。我々が現役の頃ブームになったこともあり六十名もの多くの会員が参加されました。また、会員への情報提供ツールであるHP（支部ホームページ）や会報「nikko」についても委員会を組織し内容の充実に取り組みました。そして社会貢献活動においても、SGC活動や地域の美化活動にも参加し、地元の方からも評価をいただきました。

さて、平成二十八年も基本的には従来の活動内容は継続する考えですが、特に昨年実施のアンケート結果を基にして新規同好会の設立を支援することになります。

五月には支部定期総会を開催し二十八年度の活動計画の具体的項目を提案します。少しでも多くの会員が各行事に参加できるよう、活動計画には皆さんのご意見を反映したいと考えていますので事務局へ、又は支部ホームページの支部宛メールで、ご提案いただければありがたいと思います。

会社の厳しい経営状態が続いている中、我々社友会として出来ることは、シャープ製品の購入を促進することです。バイシャープ運動は終了しましたが、これからも一層シャープ製品の愛用の意識を深めていただくよう皆様のご理解とご協力をお願いします。

社友会活動が一層活発になりますよう今年も皆様のご理解とご協力をよろしくお願い致します。

シャープ労働組合 栃木支部

執行委員長 大島 明人

あけましておめでとーございます



社友会栃木支部の皆様におかれましては、希望に溢れた新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。

日頃は、増田支部長はじめ多くの皆様に、労働組合の活動に対しましてご理解とご協力を頂いていることに、心より御礼申し上げます。

合わせまして、昨年行なわれた矢板市議会議員選挙におきましては、「中村ひさのぶ」栃木支部顧問が四度目の当選を果たすことができました。社友会の皆様をはじめ、多くの皆様からのご支援の賜物と感謝いたします。現在は矢板市議会の議長として働かせて頂いています。引き続きご支援を頂きますよう、宜しくお願いたします。

さて、昨年は、私たちのシャープそして栃木事業所にとって激動かつ試練の一年でした。本来であれば二〇一三年からの中期経営計画の最終年度として、会社の再生と成長が具現化されるべき年でしたが、二〇一四年度下期以降の急激な外部環境の変化に対応することができず、昨年五月の決算発表では二〇一四年度通期で大幅な赤字を計上し、同時に組織のフラット化、カンパニー制度、人事制度の抜本的改革を大きな柱とする新たな中期経営計画を発表しました。合わせて労働組合には人員削減をはじめとする経営改善対策について申し入れがあり、九月末日をもって全社で三二

《3ページ 下段に続く》

執行役員

デジタル情報家電事業本部長

小谷 健一

新年明けましておめでと〜うございます



社友会栃木支部の皆様方におかれましては、清々しい新春をお迎えのことと存じ、心からお慶び申し上げます。

また、日頃より当社製品を「愛用頂くと共に、栃木事業所社員に対するご指導、ご鞭撻を賜り、誠にありがとうございます。会社を代表して心より御礼を申し上げます。

さて、中間決算でも発表しておりますとおり、当社の経営は依然として厳しい状況にあり、会社再建に向けた取組みとはいえ、昨年九月末に二度目の希望退職者を募ることとなりました。また、当社に関する憶測報道が新聞やテレビのニュースで取上げられ、皆様にご心配をおかけしましたことを深くお詫び申し上げます。

当本部の業績は、厳しい経営環境の中でも回復基調にあり、営業利益は七ヶ月期から黒字転換を実現し、二〇一五下期は黒字に向けて頑張つて参ります。一部でテレビ事業の将来性を不安視する声もございますが、高橋社長は中間決算において、「テレビは重要な商品事業」と明言されました。私自身も、十一月下旬に開催した工場見学会において、約50名のメディア関係者に対し、「栃木工場は4Kをはじめとした高品位テレビの生産に必要なマザー工場である」と申し上げました。今後、栃木事業所でお客様に納得してご購入頂ける商品の開発／生産に取り組んで参ります。

今年の液晶テレビ国内需要は、エコポイント／アナログ停波の特需期にご購入頂いたテレビの買換えサイクルを迎え、回復期に入ります。特に4K等の高精細テレビ市場は二〇二〇年に向けたインフラの進化により、確実に伸長します。拡大する4K市場において、当社は二〇一四年十月に20%だった実売金額シェアを昨年十月には約30%まで高めることができました。また、4K金額構成比は、二〇一五年度の目標である30%を達成し、二〇一六年度には40%を目指して、更なる拡販に取り組みます。

人間の五感の内、「視覚」と「聴覚」の占める割合は九割と言われており、「視覚」と「聴覚」をつかさどる家庭内のディスプレイは決して無くなることはありません。今後、IoT機器が普及する中、テレビは放送を受信するだけでなく、オープンプラットフォーム化（Android等）により、家庭内のディスプレイとして、ネットコンテンツや様々な情報を最適に表示できる機器として進化していきます。昨年、十月より導入されたCEカンパニーのもと、通信／健康環境／デジタル情報家電を横断した技術融合／機器間連携を加速させ、従来の「テレビジョン」を超えた新たな価値観の創出、新たな需要の創造に取り組んで参ります。

先輩方が築いてこられた「デジタル情報家電事業の更なる発展を目指して、継続的に利益を生み出す事業体への変革に全社員一丸となつて取り組んで参りますので、引き続き皆様のご支援・ご指導を賜ります様、よろしくお願い致します。

最後にシャープ社友会栃木支部の益々のご発展、及び会員の皆様のご健勝とご多幸を祈念申し上げ、年頭のご挨拶とさせていただきます。

〇〇名、栃木事業所においても二〇〇名を超える仲間がシャープを去りました。

会社に残る私たちも、自分の人生やシャープで働くことの意味を考え抜きました。その上で私たちには、何としても会社を再生させ、真に広く社会の文化と福祉の向上に貢献するシャープにする責任があります。

昨年十月からの新経営体制で、この栃木事業所はコンシューマーエレクトロニクスカンパニーの一つとして新たなスタートを切りました。その直後の二〇一五年度第二四半期決算発表で、シャープとして通期見通しを修正せざるを得ないという大変厳しい内容となりましたが、栃木事業所としては開発・生産が一体であるマザー工場としての強みを活かし、4Kテレビにおいて昨夏以降シェアNO1となつている事などから営業黒字を達成しており、二〇一五年度下期黒字化においても必達に向けて活気を取り戻してきています。

私たちのシャープを自らの手で守り、強くしていくためには、抜本的な業務改革、働き方改革は待ったなしです。このような時だからこそ、経営信条の「和」をもつて労使で取り組んでいく必要があります。「職場課題」や「改善策」は、事業環境や業務内容を理解している「職場」が最もよく分かっています。労組としても、この二〇一六年は、改善への意欲と活力に満ちた職場が育まれ、ひいては生産性の向上や一人ひとりの働きがいにもつながっていくために、主体的に問題解決できる職場づくり大きく踏み出していきます。

社友会の皆様には長きにわたり大変ご心配をお掛けしておりますが、引き続き私たち後輩の頑張りを見守って頂ければと存じます。

最後に、シャープ社友会栃木支部の益々の発展と会員皆様のご健勝とご多幸を心からご祈念申し上げ、新年の挨拶とさせていただきます。

長寿コーナー

「喜寿を迎えて」

会員番号 七三二 安東 郁哉



過日社友会より喜寿のお祝いをいただき有難うございました。早いものでシャープを退いて二十二年になり感慨もひとしおです。

社友会に入会して以来、

その間事務局長・副支部長・会報の編集委員等に携わり、このことを通して面識の無かった多くの方々を知ることが出来ました。今思えば電化事業部から昭和五十五年に転勤して以来、ビデオのドラム切削加工（四班三交替）・ドラムの組み立てラインを担当し、昼夜区切りのない多忙な毎日であったのを今は懐かしく思い出されます。

喜寿を迎えて思うことは、まずは健康である事、そして自分で動けて家族・周囲の方たちに迷惑をかけることだと思っています。

今は出歩きが少なくなつた分、小さな庭で趣味でブドウの栽培をしたり、春から秋にかけては、無農薬の野菜を栽培して、毎朝新鮮な青ジュースを飲んで



病氣はいくつか有り通院はしていますが、今のところ大丈夫です。今までどうり身体を動かすことでは、

月に二、三回のゴルフを楽しんだり、又、最近始めたのですが町内会で企画されて、はじめられた「イキイキ体操教室」に参加してボケ予防のトレーニングを心がける様になっています。

今後も社友会の行事にも出来る限り参加をしていき交流を図って行きたいと思っていますので宜しくお願い致します。

「古希を迎えて」

会員番号 三三七八 中倉 勝利



この度は、古希を迎えて社友会より、お祝いを頂き誠に有難うございます。昨年六月に七十代に突入「光陰矢のごとし」を実感しております。

退職後は第二の人生を楽しむもと、始めたことが、そば打ちとステンドグラス制作でした。そば打ちは、地域との触れ合いの目的もありましたが、「三たて」即ち、挽きたて、打ちたて、茹でたてを守れば、初心者でも結構おいしく出来るので嵌りました。

しかし、そば粉の大きさ、含有水分量、湿度、温度、切るまでの時間によって出来上がりが異なり、未だに完璧に打てません。家族全員がそば好きでもあり、続いておりますが、同好会メンバーと共に行政区の敬老会や団地の夏祭り等で振る舞い、喜ばれる事が何よりそば打ちを始めて良かったと思っております。

ステンドグラスは時間がかかりますが、達成感是最高で、写真のフロアランプシェードは、東日本大震災を挟んで制作に丸三年かかりました。

最近では時間の半分を母親の生活支援に費やして社友会の行事にも参加できておりませんが、日程が合い次第、参加して行くつもりです。

次は喜寿を祝ってもらえるよう健康寿命を延ばしたいと思うこの頃です。

「古希によせて」

会員番号 三三八五 毛川 修



この度、古希祝いを頂きまして誠にありがとうございます。『古希なんてまだ先の事と思っていたのに！』

早いもので退職して十年が経つたんですね。この間、健康に過ごせた事を支えてくださった皆様や、

家族に感謝しています。

現役時代には、趣味という趣味もなく仕事一筋に過ごして来ました。退職したら何か没頭できる事を探さなくては、と考えた末、数年間アルバイトで時間を過ごしました。そして更に趣味探すと、健康管理、地域



制作に丸三年かかったフロアランプシェード

交流を求めシルバー大学に入学しました。今までと違った分野の人達の違った価値観に出合う事が出来、私の人生観に大きな影響を与えてくれました。現在はシルバー大学OBとしてグラウンドゴルフ、旅行、書道、世代間交流での児童館・保育所での子供達とのふれあいや、人材センターでの活動にも積極的に取り組んでいます。

今後も、皆様のご協力を頂きながら健康で楽しい生活が送れるよう励んで参りたいと思っています。

『ボランニニア』

趣味の世界を増やそう

老後を画す七十の春

「古希を迎えて」

会員番号 三三三三 松田 輝臣



秋田県米代川で釣った
26cm級の鮎

まず古稀のお祝いを頂きましてお礼申し上げます。
定年後から十年間、私にとっては初体験の農業に挑戦し、ようやく地域の農家の人達の仲間入りが出来た様な気がしています。これからいろんな事に挑戦していきたいと思っています。

趣味としては、社交ダンス、太極拳、バトミントンを六十六歳まで続けてきました。しかし、これらの動作は無理なひざ関節運動があり、高齢者には余り良くないため、きっぱりとあきらめ、今は鮎釣り、麻雀、温泉巡りに没頭しています。

写真は昨年の夏に秋田県の米代川に遠征した時のもので、二十二cmと二十六cmのサイズで想像以上の引きに悪戦苦闘して釣り上げた鮎です。

日常の仕事は地域の環境保全活動で事務局として、七年間続けてきました。残り三年間、頑張っていきたいと思っています。

「古希を迎えて」

会員番号 五〇五一 佐藤 節夫



オカリナを手に持って

この度はお祝いを頂きまして有難うございました。
こうして元気に古希を迎えることができたのも社友会の皆様のお力添えがあったからこそと感謝申し上げます。

退職してから今まで「アッ」という間の歳月でしたが、お蔭様でゆったりした時間の中で楽しい日々を送っています。

しかし、どうかするとマンネリ化しやすい性格なものですから、私は毎年、年頭初めに生活目標を決め、それを実践することで張りを付けています。

皆様も立派な目標をお持ちのことと思いますが、紹

介させていただきます。

我が家の目標

○まず健康

○日々充実

～朝は希望に起き
～昼は努力に活き
～夜は感謝に眠る(格言)

具体的な心掛け

- 各地の名所旧跡を訪ね、先人達の生き様や当時の知識を吸収する。
- トマト、キュウリ等の野菜とみかん、柿等の果物作りを行い、育てる楽しみを実感する。
- 味噌、麹、漬物等を活用して六次産業製品の創出に取り組む。
- 赤飯、餅、そば等を子供達、孫達に振る舞い、家族の絆を深める。
- 趣味としてやっているオカリナのレパトリーを増やし、演奏活動に取り組む。
- シルバー大学OBとして、清掃活動等のボランティアを継続して実施する。
- 一日一時間、一万歩のウォーキングを日課とする。

現在、我が家は子供達三人が独立し、妻との二人きりの生活です。これからも目標を實現しながら、二人三脚で、家族を大事にし、地域を愛し少しでも「世のため、人のため」になるよう努力していきたいと思っています。

幹事コーナー

「二班の幹事になって」

第一班 竹中 清



平成十五年十月に永年お世話になりました会社を定年退職し、同時に社友会に入会させて頂き、早や十二年経過しました。

本来であれば平成二十五年四月から担当すべきところ、生まれて初めての入院・手術と、その後の薬の副作用の為、敵わず、無理をお願いし、前任幹事の木村勝仁さんに二年前倒しで担当して頂きました。お蔭様で平成二十六年十二月に二年間服用必須の薬から解放され、翌年四月より第一班（宇都宮東部地区）の幹事を担当させて頂いております。幹事会で久しぶりに矢板工場に伺い、何とも言えぬ懐かしさを憶えると共に往復の車の中で「健康で居られることの幸せ」と「平凡な暮らしができる幸せ」を改めて実感しています。

病気になるまでは「周りの人に支えられて生活出来ている」という思いに乏しく、つい自分本位のものの考え方をしていたが、病気になって「今、自分が在るのは周りの人に支えて頂いているお蔭だ」と心底から思えるようになりました。

『人は独りでは生きて行けない』

周りの人の支えがあつて

初めて生きて行ける』

また

『人と云う字の成り立ち（支え合う）』

を改めて強く感じております。

古希も過ぎ、身体の衰えを感じる機会が多くなってきましたが、幹事の任務を遂行するためにも、先ず健康維持が第一と考え、何年やっても一向に腕前の上がないゴルフに再チャレンジしている今日この頃です。

「九班の近況について」

第九班 佐藤 壽行



今年四月より九班の幹事を担当しております佐藤壽行です。

九班は矢板駅東口を主とした商業・住宅地の末広町地区（nikko 30号で詳しく紹介されております）及び北は住宅団地ロビンシティから南はシャープ工場の東側で安沢に隣接する中地区よりなります。現在会員は二十三名です。

各会員宅への資料は「手配り」し出来る限り会員の方に手渡すようにしています。まだ地図を頼りにしております。今夏自転車で配布したところ、坂道を登り切れず歩かざるを得なくなったことを反省し、二度目は配布順序を変え事なきを得ました。長年矢板で生活したものの会社との往復が主だったせいもあり、各会

員宅を訪れる中で新たな発見もしております。

今、末広地区が大きく変わろうとしております。当地区には日本たばこ産業の倉庫がありました。この倉庫が撤去され、跡地が売り出されています。敷地が広大な事もあり、なかなか買い手が付きませんでした。矢板市が土地を取得して、そこへ栃木県サッカー協会が整備構想を進めている

「どちぎフットボールセンタ」の誘致に名乗りを上げました。

実現すれば街は大いに発展する事でしょう。期待しております。

今後とも、社友会と会員皆様とのパイプ役を全うすべく頑張りますので宜しく御願い致します。

「ハッピーハイランドの幹事になって」

第十三班 坂本 幸夫



第十三班は矢板市の通称「ハッピー団地」と呼ばれている地域です。先の東日本大震災では大きな被害を受けました。（特に盛土地域は）

そして国の「地盤滑動防止対策工事」が昨年の八月にようやく完了となりました。四年以上も掛かってしまいました。この間団地を転出された方もおられ、現在は一八〇軒程度の規模になりました。会員数は二十六名です。（OBで会員でない方

も十名以上おられます)

当団地では造成から四十年以上経つため、数々の課題を抱えています。

◆四十年前には先進だった「集中浄化設備」を持ちますが、これが耐用年数に来ており、自治会運営で毎年補修しながら運転しています。(先の震災では大きな被害を受け、積立金を三千万円近くも取り潰して復旧しました。三ヶ月間下水の使用が出来なかったので本当に困りました)

◆自治会館も震災で大きな被害を受けており、だましまし使用して来ましたが何とか再建したいと取組み中です。

※「集中浄化設備・自治会館」共に、自治会運営の為に「任意団体には支援金を出せない」の一点張りです。(準公共設備なのに何故?)

◆当団地は成田行政地区内にある為、行政区と自治会の二重組織で費用も二重に掛かる為、行政区の分離独立も視野に検討中です。

※これら難しい課題にシャープOBの方々を中心に、本当に熱心に取り組まれています。時には協議が白熱したりしながら、仕事以上に熱心には?

◆団地の「少子高齢化」も本当に実感されるところであり、たまたま民生委員になった事もあり、分からないなりに模索しているところですよ。

◇社友会のクラブには「グラウンドゴルフ同好会」に入って楽しんでます。毎日やっているおばさん達には全く歯が立たないですが、上手くいっても、しくじっても楽しいのが良いですね!



現在の自治会館

「趣味の友釣りの」

第十七班 相馬 健一



私の趣味の魚釣り(鮎の友釣り)についてお話し致します。

鮎は年魚(二年間で一生を終える)である。

秋頃、河口付近で産卵し、稚魚は海で過ごし、春先に川へ向って遡上を始め、直ぐに水垢を見つけ、なめはじめます。

鮎ほど複雑な習性を持つている魚はほかにはいません。栃木県から茨城県へ流れる那珂川で友釣りをしておりますが、なかなか気難しくて釣れない事が多いのです。川底の石に着く垢をたべ、縄張りを持ち侵入者を追い出そうとして攻撃いたします。その時、オトリ鮎の針にかかるのです。鮎は古い水垢を腹一杯食っているとオトリ鮎を追わず、釣り針にかからないのです。雨が降らないと古い垢が洗い流されず仲間と食べ物競争をしようとし、釣れないのです。川底の石の新鮮な垢を求めて上流へ、上流へと昇る習性がありますが、あまり水温が低いと石に新鮮な垢が着かないため、冷たい水の所には鮎は生息できないのです。

古い垢が流れた後に、五日から一週間の後に新しい水垢がつき、鮎は新しい水垢が大好きで、水垢がついた底の石を繞り、縄張りあらそいが演出され友釣りができるわけです。

釣り時期は六月から九月まで楽しんでる私です。

新入会員紹介

(平成二十七年四月一日〜二十七年九月末 入会者)

会員番号 六三三〇 小林 冬記



このたびシャープ社友会に入会をさせていただきました。皆さん、どうぞよろしくお願ひします。

さて、月日の経過は歳を重ねるごとに早くなり自分はまだまだと思っていました。シャープを退職後は、親の体調が悪く、しばらくは家でのんびりとしていましたが、良き先輩にも恵まれ、現在は栃木県から遠く離れた山形の地で仕事をしています。

山形は、水が豊かな米どころであり、また果物も豊富な土地で、日本酒だけでなく美味しいワインにも恵まれたところですよ。ただ、冬は寒さが厳しく、雪が深いところですが、なんとか頑張っています。

今回入会させていただくにあたり、社友会の会報を拝見すると、まだまだいろいろな分野で活躍されている皆様や、顔見知りの方々のお元氣な姿を見ると、自分はまだまだ若輩だなとつくづく感じます。それでも、これからは現役時代とは異なり、もうすこしゆとりを持って何事にもかわりあうことができると思っています。今後ともご指導の程、何卒よろしくお願ひ致します。

☆写真・メッセージをいただけなかった皆様は

会員番号、氏名、生年月日のみ紹介いたします

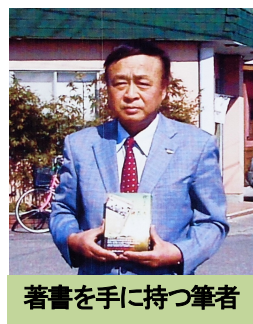
会員番号 氏名 生年月日

六三三一 今村 久 一九五五年 一月 五日

一般投稿コーナー

「我が郷里の歴史探求」

会費番号 四九三八 津田 功



著書を持つ筆者

私は幼い頃より昔話を聞くのが人の倍も好きでした。三十数年前から、郷土史の探求を開始し、探求の傍ら過去に出筆活動もして三冊の本を出版しました。

この度、編集委員の方より「本の紹介方々、一般投稿をしてみませんか？」との要請があり、快く承諾しました。ここに私が出版した三冊目の郷土史本の概要を書かせて頂きます。

『燃えた「火」が「否」を消し「碑」を建てた』

明治三十一年、福島県旧大田村（現・伊達・原町）から北海道旭川市東旭川町米原瑞穂（ペーパン）へ移住に応募した百二十八戸の家族とその消息。

知られざる史実に迫る

文芸社出版（二〇一〇年四月十五月初版）

この郷土史本（全二〇八頁）の題名が何を表しているのか？分らないと思いますが、その意味は

『努力して不可能を追いやり記念碑を建てた』

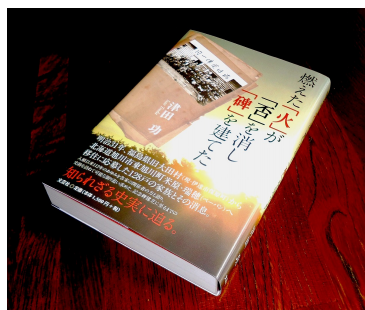
と云う事を表しています。

【概要】

明治二十年代の我が郷里、福島県伊達郡大田村（現在は伊達市保原町大田地区）は、耕地面積も狭く人口は増加の一途にありました。正に村は存亡の危機に瀕していました。時の村長、菊田熊之助は、村民を救済すべく北海道への移住を思いっていました。

明治三十一年、多くの村民が未開の地であった現在の旭川市東旭川町米飯（ペーパン）地区へ移住しました。この秘められた史実は、移住から八十年の歳月を経て郷里に報道されました。

こうした史実はこのまま経過すれば、忘れ去られる運命にある為、永久に残すべく記念碑の建立を企画しました。記念碑を建立した経験ありません。また、その手段さえ分らない著者（津田）は、ただ郷里に健在の関係者や広大な北海道へ、度々、足を運び、ひたすら寄付を求めました。反対者は、いなかったものの多くの方がその実現には難色を示しました。幾度も挫折はありましたが、郷里、及び、北海道に建立委員会を設け、目標額で百万円の資金を目指しました。北海道にあつては、その結果、二百五十万円もの資金が集まりました。ただ、ひたすら動きまわりました。それだけしか言えません。



本書の題名

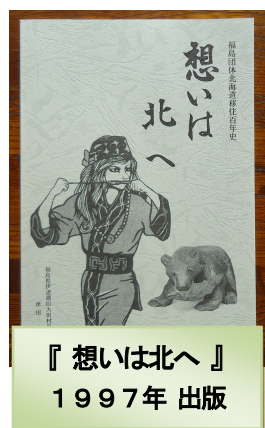
『燃えた「火」が

「否」を消し

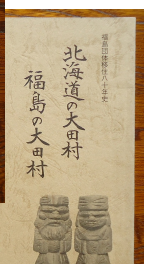
「碑」を建てた』

は、この様な体験から命名しました。

過去の出版物



『想いは北へ』
1997年 出版



北海道の大田村
福島の大田村
1979年 出版

また、手前みそになりますが、この記事は、地元の北海道新聞、北海タイムス、旭川市広報、保原町広報、他にも掲載され、掲載回数は四十回を越えました。尚、購読してみたいと思う方は、当方（津田 ☎ 0287-43-2478）迄、連絡頂きたくよろしくお願い致します。



福島県伊達市保原町
に建てられた記念碑

＝ 趣味にも目標を持つと充実した体験が出来ます ＝

・私が定年を迎えてからも多くの人々との出会いがあり、その中には仕事を続けている方、趣味で日々を楽しんでいる方など第二の人生の過ごし方も様々です。
私は今迄の経験から、目標を決め達成した充実感と次の挑戦への適度なストレスを持つことで健康寿命が延びると思い 日々、新たな気持ちで過ごしています。

会員番号 5432 矢板 利一

10年かけて法隆寺の五重塔

高さ90cm

端材を活用、すべて手作り

矢板の矢板利一さん

矢板市下伊佐野の矢板利一（としかず）さん（65）はこのほど、約10年がかりで縮尺35分の1の法隆寺・五重塔を完成させて地域の話題を集めている。矢板さ

んは「全てが手作りの五重塔。修正を繰り返しながらの制作でしたが、出来具合には満足しています。興味のある方は気軽に訪れて見てほしい」と話している。地元の大手家電メーカーに勤務していた矢板さんは55歳を迎えた頃、定年後の

ライフスタイルを模索。小学生時代に始めた模型制作の特技を生かし、誰も真似の出来ない建築物を制作してみたいと考え、姿・形が美しく、特に6層に見える裳階（もこし）に感動を覚え世界遺産の法隆寺の五重塔に決めた。



完成した五重塔と満足の表情を見せる矢板さん

文献や写真を元に、修正を加えながら図面の完成までに5、6年を費やした。また、制作の機械や工具類も準備。61歳で定年退職し、翌年から本格的に制作に取り組んだ。材料となる木材は友人の建具職人から端材をもらい受け、図面を基に工具で細かいパーツを切り出し、加

《下伊佐野地区に納めた自作の祠》



工を施してボンドで貼り合わせ組上げ、1層が出来上がる。御柱を中心に各階層部を組んで行く作業を繰り返した。特に屋根の反り具合を表現するのが難しく、試行錯誤の末、技法を生み出した時はうれしかったという。

九輪や水煙、風鐸などの装飾品は、粘土で成型してオーブンで焼いた後、耐熱シリコンで型を作り、アロエ（金属）を流し込む工程を経て完成の後に飾り付け。土台の周りには砂利を敷き詰め高さ90cm、重さ約20kgの五重塔が出来上がった。また、本物に近い雰囲気を出すために、漆を施す研究も行っている。「根気と集中力が求められる趣味の世界です」と矢板さん。

現在、同塔の20分の1の制作を進めながら、同市長井の寺山観音寺に奉納する祠の制作にも力を注いでいる。矢板さんは「体力の続く限り、物作りの研究を追求して行きたい」と意欲を見せる。

問い合わせは、矢板さん
☎0287・43・3495まで。

歩こう会 百回記念登山

歩こう会「白馬・八方尾根」にて

幹事 松本 隆

歩こう会は平成11年10月に発足し、以来16年間活動を続けて来ましたが、平成27年8月20日にその活動も第百回目を迎え、記念の定例会として長野県の「白馬・八方尾根」にて1泊2日のトレッキングを実施しました。

歩こう会 第100回 定例会
平成27年8月20日「白馬・八方尾根にて」参加者19名



「白馬・八方尾根」は、白馬連峰や北アルプスの日本百名山11峰が見渡せる絶景スポットとして、人気の高いトレッキングコースです。

当日は、朝の間は小雨交じりの雨天でしたが、トレッキングをスタートして暫くすると晴天となり、八方池までの尾根道を高山植物の花と絶景の山岳景観を眺めながら、爽やかにトレッキング出来ました。

下山後は白馬村にて宿泊し、会員相互の懇親を深め、翌日は大町市の「山岳博物館」を見学して、北アルプスの地質学的な歴史や近代登山歴史等について学びました。

帰路には戸隠神社にも参拝し今後の山歩きの無事を祈願し、1泊2日の「白馬・八方尾根トレッキング」と信州の景勝地を巡る第百回目の定例会を無事に終了することができました。



歩こう会は平成11年10月の発足時は、会員数8名で活動をスタートしました。活動の範囲も県内を中心に日帰りを実施をしていました。

現在は会員数29名にて県内、県外の山や景勝地での年6回の定例会を計画し、夏季には遠方の山へ1泊2日のトレッキングも行い、充実した活動を実施しております。

有志会活動 「北アルプス・劔岳」にて 参加者5名



歩こう会の活動が今回第百回目を迎えることが出来ましたのは、今まで活動を支えて頂いた諸先輩や、会員の皆様のご支援、ご努力のおかげであると深く感謝申し上げます。今後も、シルバー世代の同好会であることを認識して、常に安全を最優先して楽しいトレッキングを継続して行きたいと思っております。

ゴルフ同好会 百回記念コンペ

十一月二日(木)にゴルフ同好会発足以来、百回目の記念大会を矢板カントリーで行いました。

当日は、あいにくの雨で、季節外れの寒さもあり残念ながらハーフで打ち切りとしました。

雨にもかかわらず、参加者六十二名と今年最多の参加でした。参加者の皆さんに感謝です。

プレー後、冷えた身体を熱いお風呂で癒して、昼食を済ませてから表彰式を行いました。

今回は百回記念コンペということで、通常のハンディキャップ戦と新ペリア戦のダブル表彰を行いました。

社友会から特別賞として、商品券の提供を受け当日賞(十二位)に充当しました。又、ゴルフ場からも、キャディバッグとボストンバッグの提供を受け優勝者副賞としました。

○上位入賞者

ハンディの部 新ペリアの部

優勝 岡崎 忠 常川良二

準優勝 川村 昇 本郷元一

三位 本郷元一 岡本純一

特別賞 和田元良 松内幸男

の各氏が受賞しました。

○ベストスコア

りんどうコース 岡崎 忠(40)

ききようコース 和田元良(41)

の各氏でした。

参加者皆さんの協力もあり、無事百回目の記念大会を終えることができました。

《 ハンディの部 入賞者 》

スタート前の集合写真

3位 本郷氏 優勝 岡崎氏 準優勝 川村氏



◇百回を振り返って

記念すべき第一回は、丁度二十年前の平成七年十月十七日に矢板カントリーで六名の参加で開催され、その後年五回程度開催されています。

○参加者の推移と優勝者(スコア)

第一回 矢板CC 6名 三好 齊(100)
 第十回 馬頭GC 13名 井村俊郎(87)
 第二十回 琵琶池 12名 生嶋良幸(91)
 第三十回 琵琶池 21名 八木 弥(99)
 第四十回 矢板CC 26名 岡澤幸男(93)
 第五十回 NSAJ 23名 大橋堅固(95)
 第六十回 那須小川 31名 松内幸男(86)
 第七十回 喜連川 50名 高橋 勉(84)
 第八十回 ロイヤル 43名 河越泰博(89)
 第九十回 矢板CC 64名 青木 隆(83)

○ベストスコア

第一回 浦川正司 96

第五回 土田甲子 88(初の80台)

第十七回 住吉幸人 77(初の70台)

○グロススコア ベスト3

第八十八回 徳田義文 70

第二十九回 生嶋良幸 73

第六十回 生嶋良幸 74

○歴代幹事(カッコン内は平成年度)

三好 齊(07～10)、岡澤幸男(11～12)

生嶋良幸(13～14)、岡部隆一(15～16)

網野正輝(17～18)、大橋堅固(19～20)

今泉正男(21～22)、松内幸男(23～24)

原田博美(25～26)、成瀬常明(27～)

ここまで大会を大きく発展させてきた、歴代幹事の皆さんに感謝申し上げます。

パソコンクラブ

Personal Computer club

Established in 2001

PCの知識と技量を深める場として
毎月定例会と研修会を行っています。

定例会

毎月
第1水曜日

午前10時～12時

研修会

毎月
第3水曜日

午前10時～12時

2015年7月～12月の主な活動内容

◆モバイルルーターを導入しました

定例会、研修会でインターネットが
できるようになりました

◆定例会、研修会の内容（抜粋）

- ・ Microsoft Office 2013 活用情報サイトの紹介
- ・ PC 購入時に参考となる PC 仕様確認方法
- ・ コンピューターウイルスの情報と対策
- ・ 『Excel の活用』 入力修正・エラー対処方法
- ・ ハイパーリンクの活用、図形写真のグループ化
- ・ 複数の写真をメールに添付し送信する方法等

◆カラオケ同好会との合同忘年会を実施しました

会員募集中

入会案内

年会費 2,000 円（新規入会者初年度のみ 1,000 円）

初心者大歓迎！

問い合わせ先

会 長 佐藤龍雄 0287-43-0425

事務局 佐藤壽行 0287-44-3377

※研修会の見学はいつでも歓迎します。



研修会のひと時



27年度合同忘年会

会員紹介

1	佐藤龍雄 会長	9	高萩紘二
2	古市正昭 副会長	10	徳田 浩
3	安東郁哉 副会長	11	中村義雄
4	佐藤壽行 事務局	12	平山 勝
5	津田 功 会計	13	廣田哲男
6	青木正和	14	福本英之
7	磯島和美	15	山崎一義
8	浦川正司		

背景：東武ワールドスクウェア（栃木県鬼怒川）

ゴルフ同好会



◇ 活動状況

平成27年度のゴルフ同好会コンペは、11月までに当初計画通り5月より4回開催しました。
会員数は、11月時点で 91名となり、毎回60名程度の参加で、活発に活動しています。
同好会では、会員相互の親睦と健康増進を目指し、楽しいゴルフの推進を図って参ります。

1.定例コンペ	第97回	第98回	第99回	第100回	
2.開催日	5月19日(火)	7月14日(火)	9月3日(木)	11月2日(月)	
3.開催コース	那須小川 GC	アローエース	大日向CC	矢板CC	
4.参加人数	59名	61名	60名	62名	
				HD戦	新ペリア戦
優勝	大橋堅固(70)	安藤八郎(94)	原田博美(75)	岡崎 忠(40)	常川良二(33.4)
準優勝	常川良二(67)	生嶋良幸(77)	玉木光一(88)	川村 昇(42)	本郷元一(34.6)
3位	飯田晋吉(69)	徳田義文(75)	青木 陸(82)	本郷元一(43)	岡本純一(34.8)
4位	原田博美(70)	針原修五郎(85)	野澤英男(84)	山口重一(45)	白川 寿(35.0)
5位	小島保二(70)	横田慎二(88)	鈴木和平(88)	白川 寿(41)	岡崎 忠(35.2)
ベストグロス (コース毎)	飯田晋吉(76)	徳田義文(75)	原田博美(75)	岡崎 忠(40) りんどうコース	和田元良(41) あざみコース

＜第100回 矢板カントリークラブ 表彰式での懇談の様子＞



◇ 平成27年度 今後の定例コンペ日程

定例コンペ	開催予定日	開催コース	備考
第101回	16年3月中下旬	琵琶池 GC を予定	別途案内
第102回	16年5月	検討中	
第103回	16年7月	検討中	

《 新 会 員 募 集 》

* 入会金 : 無料 * 年会費 : 無料
 * 定例コンペ : 年間 5回 5月、7月、9月、11月、3月
 * 連絡先 : 幹事 成瀬常明 ☎ 0287-43-5887
 eメール tsun4902@amber.plala.or.jp

歩こう会



◇歩こう会の案内

☆定例会として、難易度が初心者向き、一般向きのコースで年6回実施。歩行時間は4時間程度

☆有志例会として、日本百名山等で本格的な高山登山や夏山での合宿登山を適時実施

◇活動状況

☆27年7月28日 定例会

安達太良山（日本百名山：標高1,770m）

あだたらエクスプレスに乗り、爽やかな夏山トレッキングを楽しみました。



☆27年8月8日～9日 有志会

北岳（日本百名山：標高日本第2位3,193m）

南アルプスの盟主「北岳」～「間ノ岳」を縦走、高山登山の厳しさも体験しました。



◇27年度定例会年間計画

実施時期	27年4月	27年7月	27年8月	27年10月	28年1月	28年3月
行先	笠丸山	安達太良山	白馬・八方尾根	荒船山	古賀志山	名草巨石群
備考	アカヤシオ	花の百名山	夏山合宿	紅葉	新年昼食会	日溜りハイク

◇会員の募集：歩こう会幹事まで連絡ください。年会費2,000円（10月以降の入会は1,000円）

◇現状会員数：会員人数29名

●連絡先 松本 隆 TEL 0287-63-6458 / 090-3906-9193
e-mail : fgysk613@yahoo.co.jp

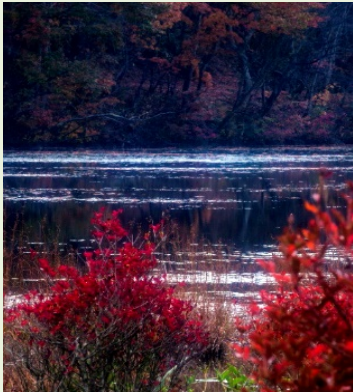
カメラクラブ



◆ 夏（8月12日）恒例の撮影会は、矢板市県民の森にて実施予定でした。今年の夏は大変熱く、異常気象のせいで「ヒル」、「スズメバチ」が大量発生し、被害もありやむなく中止いたしました。

◆ 秋（10月22日）の合同撮影会は、晩秋の紅葉を目指し、いつもより早めの4時に矢板を出発しました。撮影地『観音沼森林公園』に日の出前に到着しましたが、曇り空で、『あさもや』、『日の出の彩光』に巡り合えません。その後は薄日が射す曇り空でした。先日大先輩から『紅葉の美しさに目を奪われない』様にとのアドバイスを胸に『自分にしか取れない』を考えて撮影に没頭しました。楽しい一日になりました。

・ 観音沼森林公園



・ 矢野原湿原



・ 大内宿



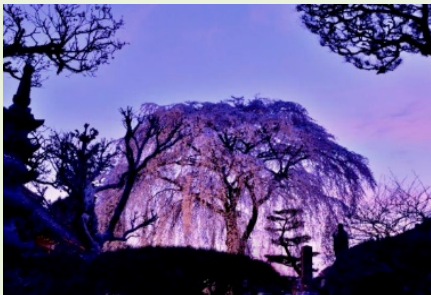
★写真コンテスト入賞作品紹介：シャープ社友会 栃木支部ホームページに随時掲載しています...

◆第34回『やいたの四季』観光写真コンテスト

特選：『愁艶』 貝増弘行

特選：『束の間の舞台』 田代宏明

佳作：『春寒』 志賀 実



◆その他の写真コンテスト入選・入賞作品

- ・ 第4回『棚田写真コンテスト in 兵庫畑 2015』 大賞：『水温むころ』 志賀 実
特選：『ご苦労さま』 貝増弘行、特選：『春の訪れ』 大屋信幸
- ・ 第9回フジカラー プロフォトコンテスト 2015 優秀賞：『待ちかねて』 志賀 実
- ・ 隔月刊「風景写真」7-8月号 優秀作品賞『飛翔のとき』 田代宏明
- ・ とちぎの四季観光写真コンテスト 入選：『里山の装い』 田代宏明
- ・ 第4回那須塩原市の四季 冬賞：『風走る』 志賀 実
- ・ 月刊「CAPA」6月号 入選『冬の名残』 貝増弘行
- ・ 月刊「CAPA」7月号 入選『優しい刻』 志賀 実
- ・ 月刊「CAPA」8月号 1席『秋の使者』 志賀 実
- ・ 月刊「CAPA」9月号 3席『雨上がり』 貝増弘行
- ・ 月刊「CAPA」9月号 入選『老いて生きる』 田代宏明
- ・ 第13回栃木花蓮写真展 入選『蓮華』 只友将弘

カメラクラブに入って、自然にふれあい 作品作りを楽しみましょう!!!

◆平成27年度活動計画 : H28年 1月10日 カメラクラブ新年会・定例会
2月10日 撮影会 東小屋湖、冬景色
3月9日 定例会 基礎研修、作品の講評

◀ 新会員募集 ▶

- ・ 連絡先 : 大屋信幸
- ・ TEL : 0287-43-5806
- ・ 年会費 : 3,000円
- ・ e-mail : n0y8a@eagle.ocn.ne.jp

カラオケ同好会

< 入会申込・問合せ先 >

会 長： 福永 勝行
(TEL) 0287-44-1109
事務局： 青木 正和
(TEL) 0287-44-1332

♪♪ 新規会員 募集中 ♪♪

カラオケ番組でプロ歌手が高得点を取れずに苦労しているのをご存じでしょう。素人が満点を取っている痛快さは、カラオケの醍醐味かも知れません。当同好会は発足から九年目に突入しますが、継続することに会員一同邁進しています。私が心掛けている事は『心』で歌う事です。昔の恋愛、思い出の土地風景、故里を離れていた時の郷愁など、あの未熟な頃の自分を思い浮かべることで精神的に若返ります。是非、皆さんもトライしてみてください。体験参加も大歓迎です。気軽に歌うことが肝心。何回も歌うと得点も徐々に上がっていくものです。身近な家族、知合いの方も一緒に参加される様、心から願っております。(記: 福永 勝行)

カラオケ同好会に入会して、第二の人生をおおいに楽しみましょう!!



8/11 定例会参加者

♪♪ 定例会活動状況 ♪♪

実施日	実施場所	参加者
7 / 14 (火)	カラオケ BanBan	8 名
8 / 11 (火)	カラオケ BanBan	10 名
9 / 8 (火)	カラオケ BanBan	8 名
10 / 13 (火)	カラオケ BanBan	7 名
11 / 10 (火)	カラオケ BanBan	7 名
11/27(金)~28	鬼怒川グリーンパレス	11 名
12 / 8 (火)	カラオケ BanBan	10 名

定例会で熱唱中の会員



8/11 カラオケ BanBan での定例会



♪♪ カラオケ好きの皆さん ♪♪

カラオケ採点機能で満点にチャレンジしてみませんか!
まだ、満点が出た事は、ありません。

『 27年度の最高得点 』

91点 / 100点満点 997点 / 1000点満点



カラオケ・パソコン合同忘年会参加者

< 同好会会員 >

福永勝行	青木正和	城本 昭	古市正昭	村上五十六	島田次秀	三堂地時臣	手島正典	津田 功
安藤八郎	佐藤壽行	磯島和美	山本正和	津久井秀一	徳田 浩	浦川正司	細川美生	福本英之
岩谷秀勝	小倉麗子	古市和子	泉口シエ	笹原幸子	大島栄理子	村上サダ子	大野信子	《計》26名

グラウンド・ゴルフ同好会



< 第12回定例会参加者 >

◇最近の活動状況(大会)

大会名	第9回定例会大会	第10回定例会大会	第11回定例会大会	第12回定例会大会
開催日	H27年5月19日(火)	H27年8月28日(金)	H27年10月5日(月)	H27年11月18日(水)
競技場	シャープグラウンド	シャープグラウンド	シャープグラウンド	シャープグラウンド
参加者数	34名 (男18、女16)	36名 (男20、女16)	35名 (男21、女14)	43名 (男26、女17)
優勝	藤原 勇 (+1) 79	石塚 忠 (+3) 83	藤田 勝義 (+3) 73	近藤 靖浩 (+1) 76
	櫻井 義子 (0) 81	江連あけみ (+2) 83	渡辺 玲子 (+2) 74	阿部 涼津子 (+1) 78
準優勝	大町 英雄 (0) 82	藤田 勝義 (0) 83	和田 堅治 (+4) 81	大町 英雄 (+3) 78
	吉澤 満子 (+3) 85	栗原 智子 (+1) 87	中島キクノ (+1) 75	江連あけみ (+5) 82
第3位	中嶋 宗孝 (0) 83	須藤 利夫 (0) 84	手塚 郁朗 (+1) 82	三好 良重 (+1) 79
	中島キクノ (0) 85	関谷スミ子 (+1) 89	阿部 涼津子 (0) 87	江連 二三 (0) 85
競技方法	32ホールストロークプレイ(8ホール×4ラウンド) NETトータル 「グラウンド・ゴルフ ルールブック2015」に準拠、ハンディキャップ付加方式()内の数値			

◇その他の活動内容

週3日(月、水、金又は月、火、金)練習日を設定しています。
健康維持増進のため入会しませんか(年会費:1,200円)



G. G同好会のシャープグラウンド整備活動



シャープグラウンド
の保全にも貢献

《 新会員募集 》 連絡先 後藤謙輔 TEL: 0287-37-0368



社会貢献活動(CSR)への参加状況

◆ 7月度「シャープ栃木工場内外の草刈り美化活動」に参加

7月25日(土)今年度の第4回SGC活動として「シャープ栃木工場 事業所内外の草刈り活動」が実施され、社友会からも10名が参加しました。

猛暑の日でしたが、3班に分かれ工場敷地フェンス沿いの草刈りを開始、社友会会員グループは工場北側フェンス沿いの草刈りを担当し、皆、汗だくでの2時間強の作業をし、見違えるほど綺麗に雑草を刈上げました。この時期、雑草の成長は速く秋口まで継続的な草刈り作業が必要と判断されますので、今後とも会社側と連携しながら、再度の要請があれば草刈り作業を支援したいと思っています。



高齢にめげず参加された中村 茂氏



参加した会員

◆ 8月度「矢板あんどん祭り会場の草刈り/準備/後片付け」に協力参加

8月22日(土)矢板市の川崎城跡公園広場で約5,000個のペットボトルを利用したあんどんを広場周辺や河川敷に飾り付ける「第8回川崎城跡公園あんどん祭り」が開催されました。多数の人が来場し、あんどんの光とイベントを楽しみました。

社友会栃木支部としても地域貢献活動として、このイベントにボランティア協力し、8月8日(土)には会場周辺や河川敷の草刈りを実施、8月20日(木)にはペットボトルに砂を入れ、それを所定の位置に配置する等の準備作業を行いました。また、当日は、あんどんの点火や、会場整備を担当しました。そして8月23日(日)には、朝7時からペットボトルの回収、収納等の後片付け作業を行いました。(写真下：開始前の挨拶、あんどんの設置、あんどん祭り当日の花火)



作業前の活動内容説明



孫と一緒に あんどん へ蠟燭投入



「シャープSGC活動」への参加状況

◆ 9月度「事業所周辺地域美化活動」に協力参加

SGC活動の一環として、9月5日（土）に「事業内外周の草刈り」と8月末に予定され雨天で順延になった「事業所周辺地域の美化活動」が同時開催で行われ、社友会からは7名が参加しました。

事業所内外周の雑草を刈り払いに3名が、「事業所周辺地域の美化活動（ゴミ拾い）」は3コースの内の1コースに4名が参加、周辺企業5社の方々と、およそ1時間の周回コースで散乱ゴミを拾う活動を行いました。（写真右：参加者全員で記念撮影）



◆ 10月度「やいた花火大会会場の美化活動」に参加

10月18日（日）毎年恒例の「やいた花火大会」が行われた会場の清掃活動に社友会からも参画いたしました。当日午前8時からシャープ社員46名、家族5名、社友会会員4名の総勢55名が参加し、社会貢献としての美化活動（約1時間にわたり会場に散乱していたゴミを拾う）を行いました。（写真下：参加者全員で記念撮影）



◆ 11月度「シャープの森 in やいた」下草刈り活動に参加

11月7日（土）シャープ・デジタル情報家電主催の今年度2回目となるSGC活動。「シャープの森 in やいた」の下草刈り活動に社友会からも参加し、美化活動に努めました。当日は晴天ではなかったものの、気持ち良い秋の空気の中で社友会からの10名を含む総勢50名が参加。恒例の下草刈りに加え、今回は「たかはら森林組合」の協力を得て植樹や杉丸太のベンチ設置作業なども行われました。



作業開始前の挨拶



活動を終え休憩中の会員



参加会員が揃い記念撮影

秋季懇親ボウリング大会

11月6日（金）例年の秋季懇親バス旅行では、参加者が年々減少してきているため、今年は秋季懇親ボウリング大会に置き換え、大田原市の王冠ボウルにて総勢59名（女性3名含む）の参加者の下、開催しました。今回は従来社友会の行事に参加されていない方々にも参加しやすい行事を！と企画し、当初100名以上の会員参加目標を設定し、各役員、幹事の方々を通じ会員皆様への参加要請を行いました。しかし締切日になっても目標人数に届かず新たな目標として、せめて第100回ゴルフ大会の参加人数を越えたい、との新たな意気込みで、会員の奥様方への参加要請も含め改めて各位への参加要請を行い、念願のゴルフ大会の参加人数を超えることを確認しました。しかし乍ら、開催当日「開催日を忘れた」「別途要件が出来た」等、諸事情により欠席者が増え、最終的にはゴルフ大会の参加人数越えの目標を下回る参加人数となりました。初めてのボウリング大会だった為、参加者集めには、一苦労してしまいました。（行事主催者所感）

当日は雲ひとつない秋晴れとなり、屋内競技には、もったいない天候でした。久しぶりに逢った会員の皆様は久々の出逢いで盛り上がる中、午前10時20分ゲームを開始。スタートに当たり辻副支部長から競技ルールの説明があり、次いで増田支部長の開会の挨拶後、支部長の始球式でゲームをスタートしました。何十年ぶりかのボウリングで一時はゲーム進行の中で戸惑いもありましたが、ストライクが出たのか各レーンでは歓声が沸き起こり、和気藹々と楽しい一時を過ごしました。予定の2ゲームが終了し、年令区分によるハンを加味した順位により表彰式を行い、まずはブービー賞の発表から始まり、飛び賞、上位賞へと進み、最後に全員が参加賞を受取り、午前中で散会終了しました。



増田支部長の始球式



競技スタート



平山 勝氏 黒川健一氏 辻 勉氏

【新規同好会が発足】

社友会活性化の一環で、昨年、会員の皆様にアンケートを実施し、同好会に関する要望をお聞きました。その結果を考慮して、現在、新設希望者数の多かった同好会から新規立上の準備活動をしています。

この度、まず第一弾として**太極拳同好会**を一月から発足する事になりました。

入会案内等の詳細は、社友会ホームページ、または案内ビラで連絡しておりますので、会員の皆様、多数のご加入をお願い申し上げます。第二弾としては、**麻雀同好会**を新設する予定です。

その他の新設希望者多数同好会（歴史探訪・囲碁将棋・ボウリング等）に関しても順次立上げていく予定にしていますので、会員の皆様、よろしくご協力の程お願い申し上げます。（新規同好会発足PJ：青木）

編集後記

昨年十月に亡くなられた会報nikko「初代編集長」仲谷輝郎氏に哀悼の意を表します。仲谷氏の遺志を継承し、読み易く見易い紙面を製作出来る様、頑張りたいと思っています。今号は、前回号よりさらにカラー表示箇所を多く取入れ、読み易く改善してみました。（編集長：青木正和）

表紙説明

雲竜溪谷手前の稲荷川沿いで出会った「霧氷」、雲竜溪谷への途中で晴れ上がった朝を迎える。眼前には、青空の中に真っ白な「霧氷」を発見。あまりの美しさに心を奪われてしまいました。（撮影：大屋信幸）

“長寿” おめでとうございます

（対象期間：H27.4.1～H27.9.30）

◆ 喜寿

722 安東 郁哉 5月27日
1273 鈴木 常忠 7月1日

◆ 古希

3234 渡部 正幸 4月1日
3236 島田 次秀 4月17日
5052 佐藤 節夫 4月29日
3285 毛川 修 6月10日
3278 中倉 勝利 6月26日
3287 木村 修 7月13日
3323 松田 輝臣 8月19日